

実世界学習行動の意味情報の推定のための計算論的  
アナリティクスの開発（研究の進捗発表）

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2019-05-29 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 黒木, 康能, 永田, 鴻流, 多田, 昌裕, 岡田, 昌也 メールアドレス: 所属:
URL	<a href="http://hdl.handle.net/10297/00026618">http://hdl.handle.net/10297/00026618</a>

## 実世界学習行動の意味情報の推定のための計算論的アナリティクスの開発

黒木康能（情報学専攻），永田鴻流（情報科学科），多田昌裕（近畿大学理工学部），  
岡田昌也（九州大学共創学部）

近年，実世界に根差した知識獲得（実世界学習）の重要性が指摘されている．学習支援の高度化のためには，学習プロセスにおいて生起する学習者行動の中から，学習の質の向上に寄与する「意味のある」行動を抽出する分析手法が必要である．本研究は，計算論を「システムへ入力される記号集合を，出力の記号集合に写像する記号操作」として捉え，センサデータをもとにした多段階の記号操作をシステムティックに行うことで，多義的な学習行動の意味を表現・推定する計算論的アナリティクスを開発している．具体的には，（1）実世界での学習行動を計測したセンサデータ集合を，行動を汎化的に表現する行動データ集合に写像，（2）行動データの特徴と行動意味の対応関係を記述したコードブックを開発し，行動データ集合を行動の意味集合に写像，（3）（1）（2）の階層的写像関係をデータベースに格納し，意味情報を付与された行動情報に潜む構造を抽出，する技術である．